



第1569回例会報告

平成30年 9月27日 (木) 曇り

会長告知

会長 北原 厚子

ロータリーデー 1569回 9月27日

「ロータリーのビジョン声明」

私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。

このロータリーのビジョンの元、9月30日の諏訪市・岡谷市の小学生の湖上観察会を今年度は当クラブ初めての試みとして「ロータリーデー」として開催します。ロータリーデーはロータリークラブ、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブが日々行っている活動を地域の人々に紹介するために、地元イベントとしていつでも開催できます。地域のつながりを強め、人々の思いやりを育み、入会への関心を高め、ロータリーのイメージ向上を図るチャンスとなるのがロータリーデーです。私たちが「心の鏡とする諏訪の湖」をこれからの時代を担う小学生の皆さんにしっかりと継承していく義務があると思います。地区補助金を活用して開催している湖上観察会も今年で三年目となりました。ここで一度原点に戻りこの活動のあり方、内容について、一歩前進する時期に来たんじゃないかな。と考えます。今後の課題にして行きたいと思います。

さて、今月はロータリーの友月間。積んどく?いや、読んどく?という記事が載っていました。毎月、何気なく届く「ロータリーの



☆幹事報告

【報告事項】

- 1: 10月のRI1為替レートは1ドル112円です。
- 2: 米山奨学会より豆辞典が届きました。レターボックスに入れておきます。
- 3: ウインドブレーカーが届きました。今週と来週、事務局と幹事において配布をしますの各会員は4000円をご用意ください。

【回覧事項】

友。「友」を活用し、クラブの活性化につなげている事例も出ています。川口のRCでは「友」が配布される毎月の第1例会に、「ロータリーの友」の記事紹介」という時間を設けているそうです。この時間は、クラブ広報委員会が当月号の「友」から特に有益、面白いと思った記事をピックアップして紹介します。地域性のある奉仕活動や世界のロータリーニュースも取り上げます。近隣地域のクラブの動向だけでなく、世界のロータリアンから国内のロータリアンまで、どこで何が行われているか、ということ全員で情報共有を図り、理解を深めているようです。すでに一年ほど継続しているそうですが、最近では「記事紹介の時間が楽しみ」「他の記事も読みたくなった」という声がきかれるようになったそうです。こんな企画も変化が出ておもしろい例会になりそうですね。是非、クラブ会報委員会のみなさんのすばらしいアイデアを期待します。



出席報告	ニコニコBOX	今週のことば
会員数 38人	名	
出席対象 38人	累計 175,000	
出席者数 22人	目標額 60万円	
出席率 57.9%	達成率 29.2%	
前回修正 78.9%		

社会奉仕担当例会

「参加者は！？諏訪湖観察会について」

社会奉仕委員会 森山 広委員長



第1569回 例会

「参加者は！？ 諏訪湖観察会について」

諏訪湖観察会の参加者アンケートの分析

諏訪湖ロータリークラブ
社会奉仕委員会

アンケート分析の趣旨

一昨年より始まった、青少年奉仕委員会との協働事業である諏訪湖観察会や下諏訪のクリーン祭りにおいての諏訪湖観察会も定着し、ロータリー会員による講師も好評を得ています。そこで、今回クリーン祭りの時の諏訪湖観察会に参加された小学生や保護者の方へのアンケートを分析し諏訪湖観察会の役割や今後について考えてみたいと思います。私たちロータリーとすると事業対象者に対する生の声だと受け取っていただきたいと思ひます。

アンケートの基礎情報

アンケート実施日
平成30年8月11日（土・祝）

アンケート実施場所
諏訪湖クリーン祭り 諏訪湖観察会 遊覧船内

アンケート対象参加者 男57名 女90名
合計147名



5 興味や関心はどんなことですか？
参加児童

- ・きれいになってほしい
- ・諏訪湖にいる魚が気になる
- ・諏訪湖がきたなくなってヒシがすごいので早めに草を取ってほしい
- ・どんな生き物がいるのか知りたい
- ・魚のこと、魚以外の生き物
- ・きたない
- ・よごれている
- ・ごみの量
- ・いろんな生き物がいる所を知りたい

- ・諏訪湖がもっときれいになってほしい
- ・回遊魚がもどってきてほしい
- ・近くに諏訪湖があるから涼しい
- ・近くにあって親近感がある

私たち諏訪湖ロータリークラブの諏訪湖を愛し浄化を含め社会奉仕をする気持ちは事業に参加していただいた方には伝わっています。

ただし、一般の方を対象とするロータリーの事業は、私たちが思う気持ちと違う思いもある。

常に検証し、新たな思い（企画）の中で参加者と主催者との一体感を共有することが必要だと考えます。